

第40回全国選抜高校テニス大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部

常任委員 内藤 美明

《 開会式 》

第40回全国選抜高校テニス大会が、平成30年3月20日（火）に始まりました。今大会は、40回の記念大会として出場枠が8校増えて、男女各56校ずつの参加校で戦われました。そして、56校全ての出場校のNo.1の選手が個人戦に出場して、U.S.オープン出場を目指して個人戦を戦いました。出場する学校が増えた為に団体戦の初日と個人戦の初日と二日目は、福岡県営春日公園テニスコートを使用して行われました。個人戦三日目からは団体戦と同じ博多の森テニス競技場で行われました。

開会式は、博多の森テニス競技場センターコートで行われる予定になっていましたが、当日20日が雨の確率が高いため、前日の19日に、「博多の森テニス競技場室内コートで開会式を行います。」という連絡が入り、昨年が続いて、今年も室内コートでの開会式となってしまいました。開会式では選手を代表して、40回連続出場の大阪府清風高等学校男子テニス部、難波尚貴主将と初出場の北海道札幌光星高等学校女子テニス部、藤本悠那主将によって選手宣誓が行われました。そして、抽選会が終わった後、今大会のテーマソングを作って頂いた、元19の岡平健治さんに会場に来て頂き、大会テーマソングを生演奏で披露して頂き、選手達だけでなく、雨の中、開会式に足を運んで頂いたご父兄の方々、並びに応援団の皆さまの記憶に残る開会式となりました。



《 団体戦 》

団体戦1回戦は、前日からの雨が降り続き、室内コートは、予定通り行われましたが、外のコートは予定変更、午後の試合も予定変更。しかし、打ち切り無しの5ポイント全で行われ、選手、監督及び応援に来られた関係者の方々は喜ばれたと思います。しかし、予定されていた対戦が消化出来ず、翌日に延期になった試合及び対戦があり、その影響で二日目の試合も予定変更になりましたが、厳しい条件の下でありながらも熱戦が繰り広げられました。

男子ベスト8は次の学校。相生学院（兵庫）、京都外大西（京都）、法政二（神奈川）、名経大市邨（愛知）、名古屋（愛知）、柳川（福岡）、四日市工（三重）、大分舞鶴（大分）。東海3校、近畿2校、九州2校、関東1校。ベスト4は、シード校の相生学院と名古屋、シード校大分舞鶴に勝った四日市工と法政二。準決勝からは、テニスデイリーのLIVE配信が始まり、男女団体戦準決勝と決勝の試合が全世界に配信されました。そして、決勝に駒を進めたのは、共にシード校に勝った、法政二と四日市工でした。男子決勝戦は、室内コートで行われ、四日市工が2回目の優勝に輝きました。

女子ベスト8は次の学校。愛知啓成（愛知）、浦和学院（埼玉）、京都外大西（京都）、相生学院（兵庫）、湘南工科（神奈川）、白鷗女子（神奈川）、四日市商（三重）、仁愛女子（福井）。関東3校、東海2校、近畿2校、北信越1校。ベスト4は、シード校の愛知啓成、相生学院、仁愛女子、そして関東対決を制した白鷗女子。決勝に駒を進めたのは、2年連続優勝を狙う相生学院と仁愛女子。女子決勝戦は、1、2、3番コートで行われ、相生学院が2年連続優勝に輝きました。



《 個人戦 》

今大会も個人戦は、団体戦に出場しているチームのシングルス No.1の選手全員が出場して行われました。個人戦初日と二日目は、福岡県営春日公園テニスコートで行われました。三日目からは、団体戦と同一会場の博多の森テニス競技場で行われました。

男子ベスト6は次の選手。徳航太（法政二）、石樽元晴（名古屋）、丹下将太（早稲田実業）、白石光（秀明八千代）、阿多竜也（相生学院）、町田晴（四日市工）。決勝戦は、丹下対白石。激しいストロークの応酬でしたが、白石が終始、試合を上手くコントロールし、6-3、6-3で優勝を決めました。

女子ベスト6は次の選手。伊藤さつき（相生学院）、清水柚華（京都外大西）、齊藤唯（早稲田実業）、今田穂（啓明学院）、吉岡希紗（四日市商）、押川千夏（仁愛女子）。決勝戦は、齊藤対吉岡。ファーストセットは、吉岡のストロークが冴え渡り6-1。セカンドセットに入ってもその勢いは止まらず、終盤の競り合いを制した吉岡が6-4で取り、優勝を決めました。



《 終わりに 》

第40回全国選抜高校テニス大会は、40回記念大会として出場枠が8校増えて、男女各56校ずつの参加校で戦われました。また、40回記念大会として盛りだくさんの内容で開催されました。まず、元19の岡平健治さんに全国選抜高校テニス大会オリジナルテーマソング「この愛の気持ちだけが世界を響かせる」を作詞・作曲して頂き、開会式・抽選会後に生演奏して頂きました。そして、参加校が男女各56校ずつに増えた為に団体戦の初日の会場が2会場（博多の森テニス競技場、福岡県営春日公園テニスコート）で行われました。団体戦初日は、雨中の試合となり、翌日に持ち越された試合もありましたが、打ち切り無しで5ポイント全て行われ、選手・監督そして応援に来て頂いた方々には喜んで頂けたと思います。2日目からは予定通り行われ、大会運営をして頂いた先生方と補助員の高校生達に感謝の気持ちで一杯です。また大会期間中のキッチンカーや博多駅前の大会告知の歓迎看板でのおもてなし、WOW WOWのご協力による団体戦準決勝、決勝及び個人戦準決勝、決勝のLive配信など「選抜から世界へ」Road to NYCに相応しい大会へと成長していく姿が見て取れる大会だったような気がします。

また、今大会も、団体戦も個人戦もどのチーム、誰が優勝するのか全く解らない大混戦でした。連日、どの試合も熱い感動を見る者に与えてくれました。そして、明日からは次の戦い、三重県四日市市で開催される「2018 彩る感動 東海総体」「翔べ 誰よりも高く 東海の空へ」のスローガンのもとでの熱い戦いを期待して、大会レポートを終わります。



